

社会科研究部会

I 研究テーマ

「社会科資料の効果的な活用法の研究」

II 研究テーマ設定の理由

授業を進めていく上で、わたしたち教師がまずもって願うことは、子どもたちが意欲をもって学習に取り組んでくれることである。さらに、社会科の授業においては、社会の変化に自ら対応する能力や態度の育成を図る観点から、学び方や調べ方を大切にしながら、子どもたちの主体的な学習をいっそう重視することが求められている。そのために考えられることの一つに、資料の選択と活用の問題がある。教師がどのような資料を用意し、どのように活用するかによって、子どもたちの学習意欲や学習活動は大いに左右されると考えられるからである。

本部会では、これまで、資料をどのように授業の中で活用していくのかという点について研究を進めてきた。授業で提示する資料を絞り込んでいくには、教師がどのようなねらいをもって授業を考えるのか。また、単に意欲を喚起するだけでなく、資料からどのような事実や社会的事象の意味を読み取らせ、また、それを話し合いなどで交流させ深めていくにはどうするのか、などの課題も明らかになってきている。

また、昨年度の授業研究では、「知識の構造図」を取り入れた指導案を作成し、「知識のもとになる用語」「調べて身につける知識」「考えて身につける知識」と学習内容を整理することで、その単元で押さえるべき内容や社会的概念を明らかにすることができた。そして、この構造図を作成することは、どのような資料が必要なのかということ洗い出すための一つの視点にもなるのではないかと考える。

このような研究の積み上げの上で、今年度は、子どもたちの学習意欲を喚起し、学習活動を充実させるためには、どのような資料を選択し活用していけばよいのか「学習内容の構造図」を作成・検討しながら研究を進めていきたいと考える。また、本部会で編集している社会科資料集「わたしたちの甲府市」について、2011年度に資料改訂を行った際、資料の精選が必要であることや学習指導要領や教科書との対応がより必要であることなどが課題として挙げられた。「学習内容の構造図」を作成していくことは、次回の資料集改訂に向けて、資料選択や内容の改訂点を検討する準備ともなるのではないかと考える。

社会科の授業づくりに生かせるような臨地研修や講演会などを計画しながら教師自身の視野を広げていけるようにしたい。さらに、中学校の社会科部会の先生方の授業を参観させていただくことで、相互に理解を深め小中連携を図る取り組みを行っていきたい。

III 研究の内容と経過

1 内 容

- ・資料を活用した社会科授業の研究（授業研究）
- ・「学習内容の構造図」の研究
- ・米倉山太陽光発電所における臨地研修
- ・中学校の授業研究への参加

2 経過

- 4 / 1 0 全体会 小中合同の組織づくり 今年度の活動の確認
- 5 / 1 5 春季全体集会 テーマ 組織 研究内容 研究方法 年間計画の決定
- 6 / 1 7 各自が研究授業に関わる指導案を持ち寄り授業の方向性を検討
- 8 / 7 研究授業指導案の検討 学習内容の構造図についての検討 夏季全体集会
- 8 / 2 0 米倉山太陽光発電所において臨地研修 研究授業指導案の検討
- 9 / 4 中学校授業研究会参加（甲府北中）
- 10 / 2 小学校授業研究会（池田小）
- 10 / 25-26 県教研参加
- 11 / 4 県教研の報告 学習内容の構造図について検討
- 1 / 2 7 今年度まとめと来年度の方向性

3 研究授業（池田小学校の実践）

(1) 単元名 健康なくらしとまちづくり～ごみはどこへ～（4年生）

(2) 単元の目標

- 日常生活から出る廃棄物がどのように処理されているのか、また、自分たちの飲料水がどのように提供されているのかについて調べたことを通して、廃棄物の処理と飲料水の確保が地域の人々の生活に不可欠であることや、これからの事業が計画的、協力的に進められていることを理解させ、地域社会における健康で良好な生活の維持と向上に主体的に取り組むことができるようにする。
- 各種の施設などで観察やインタビューを行ったり、地図などの資料を活用したりして調べ、地域の人々の願いや努力、自分たちにもできることなどを考え、表現することがきるようにする。

(3) 本時の学習

- ①目標 ごみの処理にかかわる対策や事業が地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていることを自分たちの生活と関連づけて考え適切に表現している。（社会的な思考・判断・表現）

②展開

(5) 本時の展開

過程	主な学習活動と内容	指導上の留意点	評価・資料
導	1 市の提案についてのビデオを見る。	・ごみの収集日を増やすことの	

入		利点と問題点から，それぞれの立場で意見がもてるように支援する。	DVD
展開	<p>ごみの収集日をふやしますか？</p> <p>2 住民集会前のミーティング</p> <ul style="list-style-type: none"> 事前取材したり考えてきたことをもとに，どんな意見を言うのか確認する。 <p>3 住民集会</p> <ul style="list-style-type: none"> 賛成派，反対派5名の立場の意見を参考にロールプレイを行う。 <p>【賛成派】</p> <ul style="list-style-type: none"> 佐田こう太（子どもの立場） 幸田あや（若者の立場） <p>【反対派】</p> <ul style="list-style-type: none"> 新田こうぞう（お年寄りの場） 中田ひでこ（主婦の立場） 植田たかひこ（お店の人の立場） <p>3 甲府市ゴミ減らし隊の方から講評をいただく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 意見の根拠となるような資料や物を示して，相手が納得できるように発言できるように支援する。 教師が司会をする。 それぞれの立場から考えられることを，自分の意見として発展して言えるように支援する。 相手の立場を踏まえて，意見が言えるように支援する。 	<p>発言・ワークシート】</p> <p>ゲストティーチャー</p>
まとめ	4 本時をふりかえり，今日からできる自分の行動と感想を書く。	「・・・をしてみたい。なぜなら，～である。」という文章でノートまとめさせる。	【ノート】

IV 研究の反省と課題

子どもたちの思考力・判断力・表現力を育成する討論形式の研究授業を計画したが，このように資料をもとに自分の考えを話し合う授業を組み立てられたことは意義が大きかった。また，甲府市役所からの職員をゲストティーチャーとして招聘し，さらに子どもに関心と理解を深める内容となった。ゲストティーチャーは生きた資料であり効果的に活用できたのではないと思う。また，今年度は学習内容の構造図についての研究も進めたが，構造図の作成を進める過程で，授業全体構想が見え，各授業の重点項目や指導内容をつかむことができた。今後も研究を継続し，活用できるようにまで進めていきたいと思う。

